

# フューチャー・アースの チャレンジ

Challenge of Future Earth under  
global environmental crisis

春日 文子

日本学術会議連携会員、国立環境研究所特任フェロー  
／Future Earth 国際事務局日本ハブ事務局長  
日本学術会議主催 学術フォーラム 2022年6月5日

日本学術会議主催 学術フォーラム

持続可能な社会を創り担うための 教育と学習のチャレンジ

## 第1部 持続可能な社会に向けた学術・社会 ・教育の連携

フューチャー・アースとしては、  
持続可能な社会に向けた学術と社会との連携に  
おける「チャレンジ」に焦点を当てた紹介

# 複雑に関連し合う、地球環境と人間社会の危機、さらにウクライナで戦争までも...



- 地球環境と人間社会の危機において、科学は何をすべきか、何ができるか？
- 少なくとも、これまでの範囲の研究協力、社会との連携では間に合わないのではないか。

Future Earthは、研究とイノベーションを通じてサステナブルな社会への転換をサポートする、国際的な研究ネットワーク



多様な専門分野同士の連携 **Interdisciplinary approach** と、  
学術と社会の関係者との連携  
**Transdisciplinary approach**（超学際研究）

**Co-design** : 一緒に研究計画（テーマや方法の選定も含めて）

**Co-production** : 一緒に研究実施

**Co-delivery** : 一緒に結果の応用、実装

# 日本学術会議会長談話「「地球温暖化」への取組に関する緊急メッセージ」

## 国民の皆さま

私たちが享受してきた近代文明は、今、大きな分かれ道に立っています。

現状の道を進めば、2040年前後には地球温暖化が産業革命以前に比べて「1.5℃」を超え、気象・水災害がさらに増加し、生態系の損失が進み、私たちの生活、健康や安全が脅かされます。これを避けるには、世界のCO<sub>2</sub>排出量を今すぐ減らしはじめ、今世紀半ばまでに実質ゼロにする道に大きく舵を切る必要があります。

しかし、私たちには、ただ「我慢や負担」をするのではなく、エネルギー、交通、都市、農業などの経済と社会のシステムを変えることで、豊かになりながらこれを実現する道が、まだ残されています。世界でそのための取組は始まっていますが、わが国を含め世界の現状はスピードが遅すぎます。

少しでも多くの皆さんが、生産、消費、投資、分配といった経済行為における選択を通じて、そして積極的な発言と行動を通じて、変化を加速してくださることを切に願います。我々科学者も国民の皆さまと強く協働していく覚悟です。

## 緊急メッセージ

- 1 人類生存の危機をもたらしうる「地球温暖化」は確実に進行しています
- 2 「地球温暖化」抑制のための国際・国内の連携強化を迅速に進めねばなりません
- 3 「地球温暖化」抑制には人類の生存基盤としての大気保全と水・エネルギー・食料の統合的管理が必須です
- 4 陸域・海洋の生態系は人類を含む生命圏維持の前提であり、生態系の保全は「地球温暖化」抑制にも重要な役割を果たしています
- 5 将来世代のための新しい経済・社会システムへの変革が、早急に必要です

日本学術会議は、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会、環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会、地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会、経済学委員

会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会において、また、Future Earth グローバルハブ日本（東京大学、国立環境研究所、日本学術会議ほか）、Future Earth アジア地域センター（人間文化研究機構総合地球環境学研究所）の協力を得て、地球温暖化への取組に係る審議を進めてきています。

この度、9月23日にニューヨークで開かれる国連気候行動サミットに合わせて、このメッセージを発信いたしました。

引き続き、国際的な学術団体や国連機関とも緊密に連携し、この問題を含め、世界的な諸課題の解決に向けて積極的に貢献してまいりたいと思います。

令和元年9月19日  
日本学術会議会長  
山極 壽一



## アジアの初期キャリア研究者のための Transdisciplinary研究研修コース (TERRAスクール)

超学際研究の実践を学ぶ短期集中講座（総合地球環境学研究所：地球研と  
Future Earth日本ハブとの共催）

<https://asiacenter.futureearth.org/>



# フューチャー・アースとしての、 学術と社会との連携への「チャレンジ」

学術と社会の関係者との連携

**Transdisciplinary approach**

**Co-design** : 一緒に研究計画（テーマや方法の選定も含めて）

**Co-production** : 一緒に研究実施

**Co-delivery** : 一緒に結果の応用、実装

学術から社会への一方的な情報伝達ではなく、共に創る活動

# イオン環境財団との協働プロジェクト 第2弾

目的：SDGsの日本のターゲットや指標を考える土台作りを、若者や消費者と専門家との対話により提案すること

ワークショップ：若者とのプレ会合、Future Earth日本サミットでの分科会

成果の発信先：

- 国内発信：政府SDGs推進円卓会議
- 国際発信：Future Earthの枠組み（Science-based pathways, Earth Commission）, UN GSDR、他

協力機関：イオン環境財団、国立環境研究所、慶応大学SFC、グローバルコンパクトネットワークジャパン、SDGs市民社会ネットワーク、SWITCH  
他

# 金融セクターとの協働ワークショップ

目的：金融界と科学者が問題意識と科学的知見を共有することで、脱炭素へ向け今後必要な行動について議論を深めること

活動：クローズドのワークショップ開催（2021年11月25日、30日）と公開報告書の作成

協力機関：国立環境研究所、主要な銀行、損害保険会社、生命保険会社、運用会社、関係省庁

# 金融セクターとアカデミアの協働ワークショップ

将来のために、今できることは何か？

金融界とアカデミアの対話から

国立研究開発法人国立環境研究所、Future Earth日本ハブ共催  
「地球環境に関するアカデミアと金融界のワークショップ」報告書

2022年2月

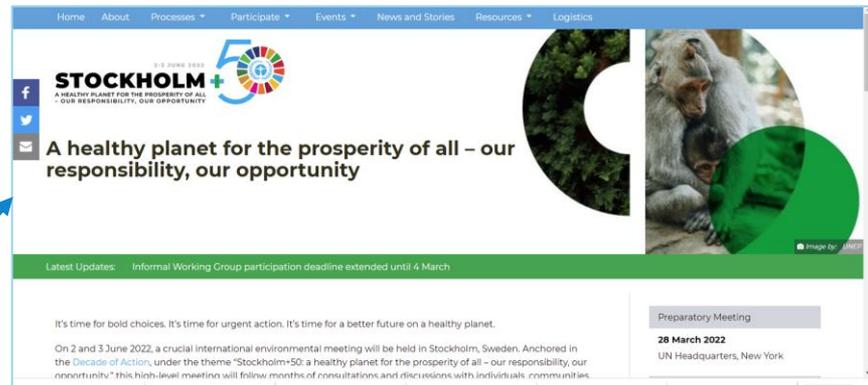
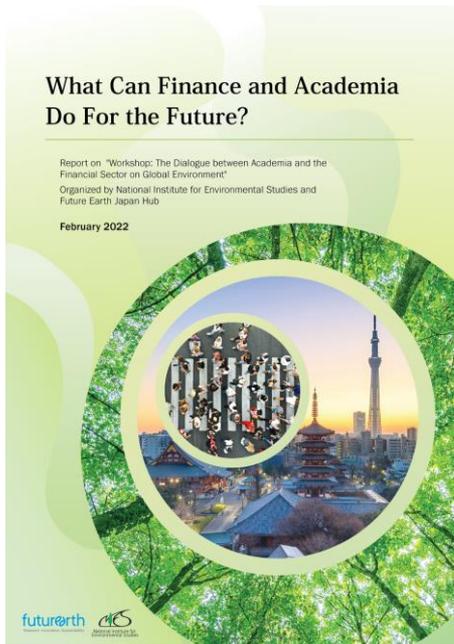


## 報告書公表 2022.2.8

地球温暖化に伴う物理的リスクならびに世界の脱炭素化による移行リスクの増大を見据え、金融セクターとアカデミアには、緊急に協力が求められる

- ・ 物理的リスク及び移行リスクの適正な評価
- ・ 脱炭素に関する社会経済シナリオや、パスウェイの作成
- ・ 気候変動の各企業・各産業への影響の理解や対応・情報開示の評価
- ・ アジアの金融界での日本のリーダーシップ
- ・ 金融システム全体の特続可能性に向けてのゲームチェンジ など

金融セクターとアカデミアの協働ワークショップ：英語版報告書による国際発信



# Future Earthの国際活動に加わるには

- Global Research Networks (GRNs)に参画する
  - 各GRN主催の国際学会に参加し、発表する
  - メンバー公募に応じる
  - 国内のGRN関係者と相談する
  - 私達国際事務局を介してGRNに連絡する
- Future Earthの統合レポートに貢献する
  - テーマ／アイデアや執筆者の公募に応じる
- SRI Congress等の国際イベントに参加する
- フューチャー・アース日本委員会に加入する
  - 日本委員会主催のイベント（今回の日本サミットなど）に参加
- 新しいテーマを日本から発信し、地域、国際的な枠組みに発展させるなど

※これらについての情報を得るには、

Future Earthに  
ご参加ください！

ご清聴ありがとう  
ございました。



Future Earth公式ウェブサイト:

<https://futureearth.org/>

Future Earthニュースレター (日英):

<https://futureearth.org/publications/newsletters/>

Future Earthの雑誌 Anthropocene (人新世)を読む (日英):

<https://futureearth.org/publications/anthropocene-magazine/>

Future Earthメンバーポータル:

<https://members.futureearth.org/>

SNS            twitter.com/FutureEarth

facebook.com/futureearth.org

youtube.com/user/FutureEarthVideo

[twitter.com/FutureEarth\\_JP](https://twitter.com/FutureEarth_JP) (日本語)

**日本語メーリングリスト:**

<https://forms.gle/cED1stBaFGqShET36>